

令和２年度病害虫発生予察予報９号（12月）

令和２年12月３日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(県下全域) やや少(中央)、少(中西、西) <u>多(中西、西)</u> 、少(中央) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(西) <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(中央)、少(東、西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、少(東) 少(県下全域) 少(県下全域) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央)
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東) <u>多(東)</u> 、やや少(中央、中西) やや少(東、中央)、少(中西) 平年並(中央)、少(東、中西) <u>やや多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 少(中央) やや少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台11月26日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞11月28日から12月27日

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	40	30
		降水量	40	40	20
		日照時間	20	30	50

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		20	40	40
3～4週目		40	30	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：11月28日（土）～12月27日（日）

1週目：11月28日（土）～12月4日（金）

2週目：12月5日（土）～12月11日（金）

3～4週目：12月12日（土）～12月25日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県下全域で平年並。発病程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域では平年よりも低かった。

(2)本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。12月は晴れの日が多く、降水量は平年並～少ないと予想されていることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや少（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、各地域ともに発生面積、発病程度は平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展は緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月は晴れの日が多く、降水量は平年並～少ないと予想されているため、既発ほ場では発病の増加に注意する。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部と西部で平年よりも多く、中央部では少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部ではやや多かった。発生程度は中西部で平年よりも高かったが、中央部では低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部、西部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部と西部で平年よりも多く、中央部では平年並であった。発生程度は各地域ともに平年よりもやや低～低かった。

(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積は各地区ともに平年並以下で、発病程度も低かった

(2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月は晴れの日が多く、降水量は平年並～少ないと予想されているため、既発ほ場では発病の増加に注意する。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（西部）、少（東部）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部でやや多く、東部では少なかった。発病程度は中央部と西部で平年よりも高く、東部では低かった。

(2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域とも平年に比べやや少～少なく、発生程度は平年よりも低かった。

(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカシカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや少なく、発生程度は平年並であった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となり、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、県西部では発生面積は平年よりも多く、発生程度も平年より高かったが、その他の地域は、発生面積、発生程度ともに平年並以下であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多かったが、その他の地域は平年並以下であった。発病程度は各地域ともに平年よりも低かった。
- (2)気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月は晴れの日が多く、降水量は平年並～少ないと予想されているため、既発ほ場では発病の増加に注意する。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（東部）、やや少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多かったが、その他の地域はやや少なかった。発病程度は東部で平年よりも高かったが、その他の地域はやや低～低かった。
- (2) 低温期は病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：やや少（東部、中央部）、少（中西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られたが、各地区ともに発生面積、発病程度は平年並以下であった。
- (2) 気温の低下とともに病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多かったが、その他の地域は少なかった。発生程度は中央部で平年並、その他の地域では低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度も高かった。
- (2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となり、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は各地域ともに平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は低かった。
- (2) 低温期は、病勢進展が緩慢となるため発生の増加は少なく、現在と同程度の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すずかび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。
- (2) 低温期は、病勢進展が緩慢となるため発生の増加は少なく、現在と同程度の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、既発ほ場で新たな発病がわずかに見られた。
- (2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入はなくなることから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年並であったが、発生程度は低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入はなくなることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.